

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

宝田小学校  
「学力向上実行プラン」

- わかる喜び・できた喜びを味わうことのできる授業づくり
- 児童一人一人を大切にす教育の推進
- 児童の特性と願いに寄り添った特別支援教育の推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読み書きや計算については、基礎的な学習内容がほぼ定着している。 ○読書タイム等を活用し、静かに読書をする習慣が身に付いている児童が多い。 ●集中して課題に取り組むことが苦手な児童がおり、学力の二極化傾向が見られる。	・基礎的・基本的な知識や技能が確実に身に付き、学習や生活の場面で活用できる。 ・基本的な学習規律が定着し、45分の授業時間いっぱい学習活動に取り組むことができる。 ・ICT機器を積極的に活用することで、情報を正確に読み取ったり、必要な情報を選び出したりし、学習活動に生かすことができる。	・ユニバーサルデザインの視点を取り入れ、学びやすい板書や環境づくりに努める。 ・本時のめあてと振り返りを明確にし、学習活動に共通しを持たせ、計画的に学習を進める。 ・児童の実態に応じた個別指導を行う。 ・図書館サポーターとの連携やICT活用等を充実させ、学習理解の深まりや広がりを図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○話をしっかりと聞き、自分の意見を書いたり話したりすることができる児童が多い。 ○タブレット端末の使用に慣れ、活発に自己表現できる場が増えた。 ●自主的・自発的な学習態度が十分には定着しておらず、考えを整理し、比較したり創造したり発信したりすることに課題がある。	・根拠や理由を明らかにし、筋道を立てて自分の考えを書いたり話したりしながら積極的に伝えることができる。 ・様々な考えや意見を比較しながら思考を深め、よりよい表現方法を身に付けていくことができる。 ・日常的にICT機器を使用し、主体的に学びを深めることができる。	・問題解決的な学習等、児童自らが課題を発見し、解決できる授業形態を推進する。 ・ノート指導を充実させたり、発問を工夫したりして、思考を深めるような授業内容を取り入れる。 ・ペア学習やグループ学習、他学年への発信等、考えを共有したり比較したりする場を積極的に設ける。 ・ホワイトボードやICT、新聞等を効果的に活用した多様な学習活動を展開する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題に真面目に取り組む、最後までやり遂げようとする学習態度が身に付いている児童が多い。 ●生活リズムの乱れや忘れ物等から学習意欲に課題がある児童がおり、自ら計画的に家庭学習を進めることが苦手である。	・「学年×10分」以上の家庭学習に継続して取り組むことができる。 ・自らの学習課題をつかみ、解決できるように計画を立て、苦手なことにも取り組むことができる。 ・文字を書くことに興味・関心を持ち、粘り強く課題に取り組むことができる。	・「宝っ子学習」をもとに、学習規律を確立させ、授業態度の向上を図る。 ・「宝っ子のきまり」や「家庭学習の手引き」、学級便り等により、保護者の家庭学習への理解と協力を得る。 ・ドリルパークの活用や自主学習を推進する。 ・できた喜びや人に認められた経験を積ませるために、書写学習等の授業改善を図る。			

令和6年度 学力向上ロードマップ

